

専徳寺報

第406号

平成25年9月14日発行

浄土真宗本願寺派

専徳寺

専徳寺納骨堂受付中

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

<http://sentokuji-iwakuni.net/>

専徳寺

検索

秋讃仏会あきさんぶつえ（彼岸会）こえ法要ほうよう

併修戦没者追悼法要

御案内

亡き人を偲びつつ、お浄土からの経こえを聞く。秋のお彼岸を
ご縁に、恒例の讃仏会法要をつとめます。にぎにぎしく
ご参詣ください。

日時

9月27日（金）

昼 1時30分～3時30分
夜 19時30分～21時

28日（土）

※朝座なし
昼 1時30分～3時30分

ご講師

本願寺輔教

成

照星師

（太宰府市）

●法座奉仕：青木地区

●戦没者追悼法要 27日昼座

●戦没者を追悼し、ご遺族の焼香があります。

●参拝セット（念珠・聖典・式章・聴聞カード）をお持ちください。

●作品募集―秋の展示会（第3回）

今年も絵画・手芸品・工芸品等、皆様の作品を本堂（庫裏）に
展示いたします。ふるってご参加ください。
法要前日までにお持ちください。
※11月の法要まで展示



● 歓喜会法要余香（8月30日・31日）

【講師】加藤一英師 【参詣数】（30日）昼座13名、夜座25名（31日）
昼座60名 ※どしやぶりの中ようこそお参りくださいました。【お
供物】藤井則枝 仏婦理事様、法要総代様、天候悪い中、ご報酬
本当に有り難うございました。

如来・人・言葉 95

弥陀成仏のこのかたは

武田公丸（元広島仏教学院院长）

阿弥陀さまは「生きとし生けるすべてのものを浄
土に往生させなければ自分自身も正覚しょうがくを取らない」
と誓って立ち上がられ、すでに正覚しょうがくを成就じょうじゆされまし
た。しかしその目当てとなつてゐる私は、今現に迷
いの苦界くるてんを流転りうてんし続けているのです。これは一体何
を意味するのでしょうか。

阿弥陀さまは、長い間の思索と、たゆまぬ修行の
積み重ねによつて、私を救うための本願力ほんがんりきを完全に
成就じょうじゆされました。そこで正覚しょうがくを取り、私が何も知ら
ない前から、すでに私を救うために活動しておられ
たのです。

浄土真宗は、迷いの私がいるからできない教法です。私が知らぬ前からのおはたらきにより、今日この様に法を聞く身にまで育てられたのです。その私に驚きの眼を持って目覚めねばなりません。

東井義雄先生は『峠のお地藏様』の一段に、

「拝まない者も拝まれている」

「拝まないときも拝まれている」

と歌って、「わし（お地藏様）への挨拶は忘れても良いが、阿弥陀さまのお喚び声・お念仏だけは忘れないようにしてくれよ」と讃仰しておられます。

II

中国残留孤児のオガワ・クニオさんは、今（一九八九）長春市の病院でお医者をしてしています。四歳の時、終戦で離散した親は、日本に引き揚げて九州に住んでいた事が最近わかりました。お父さんが「一緒に暮らそうではないか」と呼びかけられました。クニオさんは帰国する気は

ありませんでした。それは一本の人参の思い出があるからです。



敗戦の混乱の中で、オガワさん一家は、一番幼かったクニオさんを何時も親しくつき合っていた張さんの家に預けて、あとの者は日本に引き揚げて来たのです。ところが中国では日本との戦争が終わるとすぐ、国民政府と中国共産党との内戦が始まりました。だんだんと烈しくなり、張さん一家はまたも荒野をさまよう境遇に落ち込んでしまったのです。食料は何もなく、上の兄と妹と三人は空腹を抱えて泣きながら両親と共に荒野をさまよっていました。たまたま養母が、一本の人参を袋の中に持っていました。養母はそれを取り出して、泣いている兄と妹に見せながら、何事かボソボソとしゃべりました。二人は、ピタリと泣くのをやめました。それから養母はクニオさんにその

一本の人参を食べさせたのです。クニオさんは、その時の光景が心に焼きついて片時も忘れることができませんでした。

それから十年の後に、養母は亡くなりましたが、そのお通夜の席で、クニオさんは思い切ってお兄さんに尋ねました。「お兄さんたちはあの時、急に泣きやんだがお母さんは一体何を言ったの」。すると兄は「今までお母さんに口止めをされていたけれど、お母さんは死んだし、聞きたいのなら話そう」と言って話してくれました。

あの時お母さんは「この人参を五人で分けて食べても、みなが助かるわけではない。一人で食べたならその一人だけは助かるかもしれない。お前たちが二人で食べて、たとえ生きのびたとしても何時かこの事を思い出し、心が和まないだろう。実はあのクニオは、よその国の人私が私たちを信頼して預けた子どもなんだ。あのクニオに食べさせようではないか。私たちは死ぬかもしれないが、しかし、いい

事をしたという思い出を持って死ぬことが出来る。どうする」と言ってお前に食べさせたのだ。これを聞いたクニオさん。「もう日本には帰らない。中国の民衆と共に生きる医師となって、この国の土となるう」と。

私が何も知らないその前に、それこそ命がけて私の事を心配してくれた真実の心があったことに気づくとき、人生を見つめる眼が転回てんかいされて、生きる姿勢が変わってくるのです。

III

阿弥陀さまの智慧と慈悲は、私がそれを受け取って救われなければ意味がなくなってしまう。そこで阿弥陀仏は如何いかにしても私に受けとらせようと願われ、それがこの世ではお釈迦さまの説法の姿として現れて、今現に『南無阿弥陀仏』と呼んでいてくださるのです。しかも私はどうすることもできない凡夫と見抜かれた上での事ですから「これでよろ

しいですか」とか「どうすれば良いのでしょうか」という言い方ほど、身の程も知らない傲慢ごうまんな心はないと言わざるをえません。

弥陀成仏みだじょうぶつのこのかたは
いまに十劫じゅうこくをへたまえり
法身ほっしんの光輪こうりんきはもなく
世せの盲冥もうみょうを照らすなり

「法身の光輪ほっしん こうりん」とは阿弥陀さまの智慧のはたらきを光明の車輪にたとえられたものです。

輪はまるく欠け目なく、狂いのないお救いのおはたらきと味わわれます。また車輪は運転し、どこまでも行きわたってくださいます。

「きわもなく」と言うことは隅すみがないと言うことで、どこを押さえても押さえたところが中心です。私こそ慈悲の中心に居り、もう逃げることはできません。必ずお救いにあずかるのです。そうでな

ければ、阿弥陀さまのみ顔は丸つぶれと言うことですから、常に世の闇を照らし続けられているのです。

しかも私は無始むしより以来、迷い続けているのですから、阿弥陀さまも無始むしより以来、活動していただきました。

弥陀成仏みだじょうぶつのこのかたは
いまに十劫じゅうこくとときたれど
塵点久遠劫じてんくおんこくよりも
ひさしき仏ぶつとみえたもう

この様に常にかかりはてておられた阿弥陀さまの慈悲に私が吸い込まれ、安心しきった生活こそ、無碍むげの一道いちどうを歩む念仏者の生き方です。

(『宝章』28より掲載)



寺内だより



み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

8月23日御往生

島田 昭文様 (67)

喪主 島田 義昭様

8月30日御往生

野上 茂様 (84)

喪主 野上ヤツ子様

9月3日御往生

末次 寛様 (87)

喪主 末次千鶴子様

ご恩を偲びつつ

〔法事勤修〕(8月5日〜31日)

〔通津〕 廣中敏子様1、島田昭文様1、高橋千賀子様1、井原義之様3、上岡峯夫様17、田村俊輔様13、村中悟様3、末広則和様50、竹田道生様7・7、〔保津〕 秋嶋保夫様13、尾崎真一様7、〔海土路〕 広重幸雄様7、〔南岩国〕 村井武夫様13、〔平田〕 藤本忠芳様3

ご報告いたします

岩国仏婦連絡会議 (9月4日 専徳寺)

〔参加者〕 河本多喜子

岩国組少女少女のつどい (9月1日 浄福寺)

〔内容〕 ウォークラリー、ながしソーメン

〔参加者〕 森重冴美、弘中慈生、坂元ブランドン

ついたち礼拝(月のはじまりをお寺から) 10月1日(火) 午前9時より45分間

第一・第二駐車場

第一駐車場の目印であった一本松が松食い虫被害にあい枯れてしまいました。樹齢は二百年あまりでした。

専徳寺の第一・第二駐車場をごぞんじですか。橋をわたり専徳寺の塀沿いをすすみ最初の道を右折し30メートルさきの右側の100坪の空き地が第一駐車場、一軒家をまたいで次の50坪の空き地が第二駐車場です。法要時は境内の駐車場がいっぱい입니다。広くて安全に出入りできる駐車場をご利用下さい。



弘中太佳50回忌

11月24日は11世坊守弘中太佳の50回忌です。11月の永代経法要はその50回忌法供養と併せておつとめいたします。

保育所『おひさま』



日照幼稚園のなかに保育園が開かれました。一歳児から三歳児までの幼児の保育をいたします。三歳児以上の日照幼稚園への入園とあわせておすすめていたします。

保育日と保育時間

日照幼稚園と同じです。

◎九時〜十五時まで

(八時からの早朝預かり保育と十五時以降の延長預かり保育もあります)

◎月曜日〜金曜日

(土曜日に半日の預かり保育がありますが予約申し込みです)

保育コース

I 全日保育

日照幼稚園とすべて同じ保育日・時間

II コース保育

①週3日コース：月額16,200円

②週2日コース：月額11,600円

③週1日コース：月額 6,200円

III 緊急預かり保育

1時間：250円

入園&登録

随時入園できますが、まず登録が必要です。直接日照幼稚園にご来園ください。電話(38-0115)にもおたずねできます。